

1・2年生合同の文化講演会 2025.6.18

「生命は利他的である」講師 福岡 伸一先生

生物学者で作家の福岡 伸一先生

青山学院大学教授・米国ロックフェラー大学客員教授

EXPO2025 大阪関西万博「いのち動的平衡館」プロデュース

産経新聞に掲載されました(2025.6.19)



生命の神秘ひもとく

生物学者の福岡氏 高校生に講演

「高校生のための文化講演会」(産経新聞社・一ツ橋文芸教育振興会主催、文部科学省・集英社後援)が18日、渋谷区の都立青山高で開かれた。生物学者で作家の福岡伸一氏が約580人の1・2年生に、「生命は利他的である」と題して講演した。

福岡氏は「体内の細胞が乱れ、弱っていくことに抵抗する」と述べ、生物は常に食べ物などで新たな分子を受け入れ、細胞内の分子を壊して合成しながら生きている」という「動的平衡」の考え方を詳しく説明。「一つの生命が終われば、保有していた資源を新しい生命に受け渡していく」と述べ、有限な生命が形を変えて生き続ける神秘と魅力を強調した。

2年生の葛城そよさんは謝辞で「『生物にとって死は最大の利他的行為』という話は新鮮だった」「個々は小さな存在でも、みんなが集まることで大きなことを成し遂げられると思った」と感想を述べた。

この講演会は、各分野で活躍する文化人を招いて全国で開催されており、今年で60回目。



講演する福岡伸一氏 18日、渋谷区の都立青山高



「動的平衡」の考え方を詳しく説明してくださいました。